

平成 28 年度 中央区立晴海中学校 外部評価報告書	
外部評価委員：富永 紀子 清水 大蔵 若狭 栄一 滝浪 誠 石田 敦浩 木皿儀孝子 西 啓三 小野内雄三 庄司 一也 松永 智仁	報告書作成者：株本 光子
評価時期	平成 29 年 3 月
<p><b>1 重点目標の評価</b></p> <p><b>重点目標 1 「基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、学習意欲を高め、確かな学力の定着を目指す」について</b></p> <p>「教職員は、組織的に授業改善した」「生徒は、学習意欲が高まり学習の定着率も高まった」「自主的意欲的に目標を設定し、各種検定に積極的に挑戦した」について、98%と昨年を4ポイント上回る教職員が肯定的な回答をしている。シラバスの充実と活用、見せ合う授業や研究授業、個に応じた指導などの取り組みによって、教職員が指導の改善に取組んだ結果と考えられる。同じ質問に、生徒は約80%、保護者は約70%が肯定的な回答をしている。このことについて、学校は、保護者が学校での生徒の状況を見えるようにすることが課題と考察している。今後は、学校での目指す生徒の姿、教師の取組、生徒の成長の姿などを具体的に伝えたり、見えやすくしたりする工夫が必要である。肯定的な回答も、そうでない回答もその原因や背景を明らかにし、次年度の改善に生かし、学校の継続的で発展的な原動力とすることが大切である。</p> <p><b>重点目標 2 「表現力の向上を図り、学んだことを学習や生活に生かす」について</b></p> <p>「教職員は、生徒の自己表現力を高めた」「生徒は、自己表現力が高まった」などについて、95%の教職員が、肯定的な回答をしている。体験活動や創造的な活動を通して、生徒の自己表現力の向上が見られたと考察している。表現力の向上のために、多面的な取組みをしていることが分かる。「指導の重点2」の「表現力」と、「重点目標1」の「確かな学力」との違いや関連性を学校全体で整理し、次年度の重点目標を設定すると、一層成果が見られ、生徒の自信につながると期待できる。</p> <p><b>重点目標 3 「学習環境を整え、心の触れ合いを通して活気にあふれ、豊かな心と健やかな心をはぐくみ、「共生」、「博愛」の精神を育てる」について</b></p> <p>95%の教職員が「教師の継続的、計画的な指導の実施」「落ち着いた学校環境づくり」「生徒は、『共生』『博愛』の精神が前年度より浸透した」について肯定的な回答をしている。これに対し、生徒や保護者の約20%は、そうではないと回答している。この回答を大切なメッセージととらえ、次年度への改善に生かしていただきたい。教職員は、たくさんの取組と様々な努力をしている。その成果を生徒が自らの姿や態度として実感したり、保護者が確認したりできる場面づくりを大切にしたい。</p> <p><b>2 今後の改善に向けた意見</b></p> <p>本校は、外部評価の役割を明確にとらえ、その実現を目指して適切な協働体制を整え実施している。この成果をすべての教職員、生徒、保護者が実感できるようにし、学校のさらなる前進につなげたい。そのために、重点目標、評価項目、評価指標の設定方法を確認する。そのうえで、目標や取組内容を焦点化し、誰もが分かる目標、教職員の取組方法、目指す教師の具体的な取組と生徒のゴールイメージとして設定する。また、教師の取り組む姿や生徒の成長する姿をわかりやすく、見えやすくする工夫をする。</p> <p><b>3 その他</b></p> <p>地域や保護者から一層理解が得られるよう、学校公開の仕方、広報活動の工夫を一層進める。学校の誠意と熱意、地域の方々の学校を思う気持ちは、大きい。開校50周年に向けて地域との協働により、晴海中学校の教育をさらに発展できると期待している。</p>	